

全国社会的課題委員会



全国大学生協連
学生委員会
学生委員長 高須啓太
編集者 浦田行紘

25/2/22(土)

第1回全国社会的課題委員会

今回は…
6/7 (土)

概要

名称：2025年度 第1回 全国社会的課題委員会
日程：2025年2月22日(土) 13:00～17:00
場所：オンライン開催(Zoom)

参加者(敬称略)

- 委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 副委員長：田島伸(信州大学生協 専務理事)
- 生協職員：古屋(北海道)、奥(東海)、吉山(中四事業連合)
- ブロック学生事務局：平井(北海道)、大澗、阿部(東北BK)、鳥居、浦瀬、白石、中津、三崎(東京)、池田、藤井(関西北陸)、加藤、北川(中四)、水野(東海)、井上、平野(九州)
- 階層別組織委員会：高須、瀬川、浦田、佐藤、志村、仲間、小谷、藤島、漆崎(25年度全国学生委員)
- 全国大学生協連：中森、藤江、田足井
- オブザーバー：加藤、中野、戸張、吉村、伊藤、久野、寺山(24年度全国学生委員会)



00 分野にわかれて具体的に協議！

全国社会的課題委員会(以下、全社委)は「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、具体的に討議をしています。それぞれのチームでの協議の様子は以下の通りです。

a.環境チーム



環境

大学生協が取り組む環境活動についてざっくりと見返し、2024年度の環境チームで話されたことを新しいメンバーとも振り返りました。全国で取り組まれた環境活動を踏まえ、2025年度に取り組みたい環境活動のポイントを学生常勤内局より提起し、今年度の環境チームのキッカケとしました。

2025年度は環境チームのメンバーを中心に全国環境セミナー実行委員会を復活するためメンバー募集を行いました。

b.平和・国際貢献チーム



平和・国際貢献

大学生協がなぜ「平和」の実現を目指すのか歴史を振り返りながら提案をしました。

今年度は、被爆・終戦80年の節目を迎えます。「80年経ったんだ」で終わりではなく、80年たったという意味、90年・100年以降も守り続けるために組合員自身がジブンゴトとして平和・国際貢献に取り組むことが重要です。

また、社会の流れや動きに大きく自分たちの生活が左右される今だからこそ、選挙に関心を持つような活動も力を入れていきます！

c.激甚災害支援・防災チーム



激甚災害支援防災

初めに、大学生協における「激甚災害支援・防災」とは何か、なぜ大学生協が激甚災害支援・防災に取り組むのかを改めて説明し、チーム別としては何をするのかについてを共有しました。

その後、自大学や所属BK、大学の防災に対する意識をそれぞれ共有し、それを踏まえうえでチームとして何が得るのかについて話し合いました。

今後も「MottaCa」の推進や募金についてをどのように推進していくかなどを考え、組合員へ拡げていけるように頑張っていきます！

d.消費者チーム



消費者

消費者分野の推進を通して、実現したい組合員や会員生協の姿を共有しました。その後、5月の消費者月間に向けて消費者チームとしてどのようなことができるかなども話し合いました。

今年は地下鉄サリン事件から30年が経過し、改めて大学の中における様々なリスクにも目が向けられます。また、大学生は様々な行動が起こりやすくなり、改めて消費行動による問題が起こることも予想されます。

今後は、いろんな角度から消費者分野に関して議論し、発信・普及につなげていく予定です！

01 年間の社会的課題推進テーマについて

25年度社会的課題委員会で力をいれていくこと

2025年度は戦後・被爆80年、阪神淡路大震災から30年と世の中で社会的課題への関心が高まる年となることが予想されます。大学生協の目指す「よりよい生活と平和」のためにも、社会的課題に向き合うことは不可欠です。だからこそ、今年は、この節目に合わせて改めて大学生協が社会的課題に取り組む理由を確認し、組合員に広げるとともに、身近なところから社会的課題の「解決」に向けて取り組むことの大切さを考えたい年になります。故に2025年度は以下2つを社会的課題の推進テーマとして設定しました。

- **組合員とともに大学生協として社会的課題に取り組む意義を考えていきましょう**
- **組合員とともに「社会的課題」を知り・知らせ・考え・話し合い、「解決」に向けて行動していきましょう**

25年度の社会的課題委員会 推進(テーマ)

**組合員とともに
大学生協として社会的課題に取り組む
意義を考えていきましょう**

- 様々な「節目」の年。
- 社会的課題への関心がより一層高まると思われる年。
- 大学生協の目指す「よりよい生活」のため、社会的課題に向き合うことは不可欠。

→改めて、大学生協が社会的課題に取り組む理由を再確認＆組合員に広げていきたい。

25年度の社会的課題委員会 推進(テーマ)

**組合員とともに「社会的課題」を
知り・知らせ・考え・話し合い、
「解決」に向けて行動していきましょう**

- 社会的課題の「解決」に向けて少しずつでもできることを。
- 私たちの生活と結びつけて様々な場を用いて考え、行動することがその解決の一つの糸口。
→身近な場所から考えて行動できると。

社会的課題に関連して何ができるかを理事会で話し合えるとよいと思う。様々な階層が集まる理事会の中で、それぞれが生協の理事という共通の立場として社会的課題についての議論ができるといいな。(学生)

社会的課題として気になる話題を一つ抽出しても、それが他の災害とか紛争とか別の社会的課題とつながっている。広がっていく。だから広くアンテナを張って進めていくことが大事なんだと思う。ジブンタチゴトにして広めていくことはキーワードになると思う。まずは知る、そのうえでジブンタチゴトにすることができるといいなと思う。(学生)

様々な社会的課題のテーマの枠組みはあるが、その枠組み同士がコラボした取り組みが増えるといいなと思った。(学生)

02 大学生協の平和活動について

平和を自分事として考え広げることができる仲間とはどのような人たちなのか

そもそも大学生協が「よりよい生活と平和」の実現を目指す意義を話したうえで、平和を自分事として考えること、広げることができる仲間とはどのような人たちなのかを問いかけてきました。

大学生は、研究やレポート作成・報告、学習会への参加やディスカッションなど様々な平和について考えることができるきっかけや機会があります。そういった場に自ら参加してみる、社会的課題を扱っている専門家や社会に出て働いている社会人に聞いてみるなど、大学生らしいアカデミックな学び(平和学習・平和活動)を実践し広げていくことができるのではないのでしょうか。

大学生協が目指す「平和」を広げ自分事として考えられる仲間を増やしていくために、今後も大学生協の平和活動について考え続けましょう！

- 研究、レポート、報告
- 情報・データ収集(インタビュー・アンケート活動など)
→直売所で何を目的に、どんな頻度で、どんな人が来るの?を調査(農学部Yさん)
- 学習会への参加(専門家の講演、お話を聴いてみるなど)
→雑草防除研究会に参加して、各地の専門家と農業事情や最先端技術などについてお話(岡山)
- ディスカッション
例)自衛隊で必要?核兵器ってなくすべき?エルサレム問題って何が正しい?これからどうなる? etc.

大学生らしい学び・活動 だと思いませんか?

「受け身」から
「自ら」へ
中高まで(先生→生徒)
大学(学生→先生・講義)

専門家
学生であり「研究者」の
側面をもつ

社会人
自らの関心に基づいて行動
できる一社会人として
社会的責任ももっている

中高までとは異なる大学生(大学生協)だからこそできる
大学生らしいアカデミックな学び(平和学習・平和活動)
を実践し広げていくことを大切に!

03 日本生協連のふくしまツアーに参加して

原発事故と被災後の生活に目を向けて

日本生協連主催の福島第一原発廃炉視察に同行した2024年度全国社会的課題委員から参加報告を行いました。訪問時の画像も含めつつ、視察した先の現状が共有されました。報告者からは、間近で今の福島第一原子力発電所の状況を見たことによる学びは大きかったとしたり、人々に実態を説明をすることと人々から合意を得ることは別であるということ、大学生協は「生活」協同組合だから、人の「生活」にも目を向けて考えていくことが必要だということが述べられました。自分の生活を自分で守ることができるか、根本的な問いですが一度皆さんも問い直してみませんか。

概要

行程

- 20日 ①東京電力資料館
- 21日 ②福島第一原発
- 21日 ③とみおかアーカイブミュージアム
- 21日 ④中間貯蔵工事情報センター
- 21日 ⑤東日本大震災・原子力伝承館
- 21日 ⑥請戸小学校

※バスの移動中に原子力発電廃炉の進捗について学習



② 福島第一原発

○福島第一原発 1号機建屋
第一原発は水素爆発を起こしたため、屋根はく以下の写真のような状態に。今は放射性物質を取り出すために建屋にカバーをかけるようとしているところ。



04 激甚災害支援・防災の取り組みを強めていくために

●2025年という大事な年に。

今年は阪神淡路大震災から30年、能登半島地震から1年という節目を迎え、社会的にも激甚災害支援・防災が注目されることが予想されます。その中でも激甚災害支援・防災とは何か、なぜ大学生協が激甚災害支援・防災に取り組むかの提起を行いました。

また、それぞれの災害から月日が流れていく中で過去の災害を風化させないために、何をどのように伝えていくかの協議を行いました。

記憶を風化させないための取り組みの一環として「3.11バトンリレー」についての紹介を行いました。全国社会的課題委員会終了後にはそれぞれのブロックのSNSアカウントにてバトンリレーが行われました。

北海道：

東北：

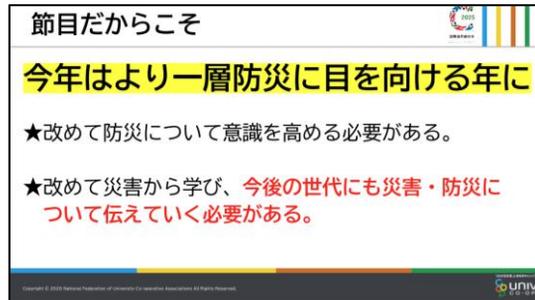
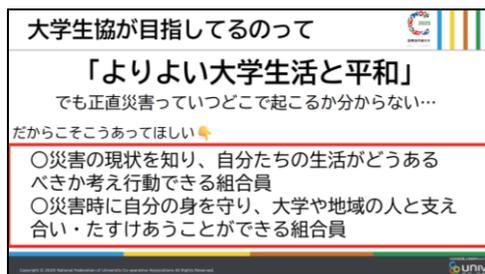
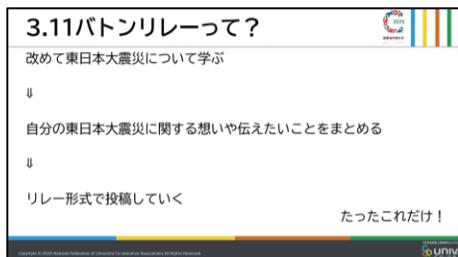
東京：

東海：

関西北陸：

中国四国：

九州：



+ α 地域報告で報告された、注目する取り組みとポイント



環境

大阪教育大学生協「リ・リパック回収」

<概要>
 ・リ・リパックの回収ボックス設置を増やすため、大学と協議を重ねている。
 ・複数種ある容器の形に合わせてボックスを加工し、積まれるように工夫している。
 ・リ・リパック使用商品の販売場所付近にて、リ・リパックの回収場所をまとめた地図を掲示している。
<ポイント>
 大学と協力しながら、工夫し、組合員にリ・リパック回収の意識を高め、組合員と共に環境活動に取り組んでいます！

平和・国際貢献

宮崎大学生協「PeaceNow! 宮崎」

<概要>
 対象：組合員
 内容：PeaceNow!に参加した学生委員の持ち帰り企画として、組合員に対して、PeaceNow! 報告資料・宮崎県の戦跡の掲示、あなたにとっての平和とは何かを付箋出しするブースを設置。
<ポイント>
 付箋出しでは、張り出された付箋に対して、他の組合員が「共感する！」などの感想も張り出せるようになっており参加者同士で平和について考えることができました。

激甚災害支援・防災

奈良県立大学生協「防災意識向上ウィーク」

<概要>
 「ふくしま」スタディツアー2024に参加した学生委員二人が当然と思っていた日常生活のありがたみを実感し、普段の生活を少しでも守るために、防災意識を高める必要性を実感してもらうために、企画を立案しました。
<ポイント>
 セミナーで学んだことをジブンゴトとして考え、さらに周囲の人に伝えることで、より防災意識を広めることができました。
 また、付箋出しや体験ブースなどで参加者が主体的に取り組めるようにしており、より多くの組合員に防災をジブンゴトとして考えてもらえるようにしました。

消費者

千葉商科大学学生協「多重債務問題啓発活動」

<概要>
 千葉県と協力して学生委員、専務理事、県庁職員と一緒に消費者問題に関する資料を配布しました。特に借金の返済のための借金を繰り返し、借金が雪だるま式に増える問題（多重債務問題）について、大学生にも伝えるために実施されました。
<ポイント>
 行政と協力し、大学生に消費者問題について知ってもらうきっかけを作ることができていました。「お友達にも渡してください」などと呼びかけをすることで、より多くの組合員にも届けることができました。

つながる元気、ときめきキャンパス。



次回は…
6/7 (土)

政策討議を政策執行に繋げます